

製品や資材を世の中に流通させる 物流従事者はエッセンシャルワーカー

「エッセンシャルワーカー(essential worker)」とは、人々の生活に必要不可欠な労働者のこと。コロナ禍では、トラックドライバーや倉庫内作業員がエッセンシャルワーカーとして再認識され、感謝しようという機運が高まりました。いまなお収束の気配を見せないコロナ禍において“物流を途絶えさせてはいけない”という使命感を持ち、業務に従事されている物流従事者の皆さまに、心から敬意と感謝を申し上げます。



職務を遂行するため
新型コロナ感染症対策を徹底



業界羅針盤

防げなかったのか関越道立ち往生 開通まで64時間
国交省自動車局21年度予算案 非常時支援など展開
景気見通し「悪化」30%超に 必要な施策は「感染症の収束」ほか

押し寄せる技術革新！ これから求められる 物流・運送業の人材

—— IoTとAI技術に乗り遅れない！ ——

一般社団法人SRアップ21

東京会 会長／社会保険労務士 小泉 正典＝文

押し寄せるITやデジタル化の波

ITやデジタル化などは、物流・運送業に、あまり関係ない、と思われるかもしれませんが、周りを見てください。スマホやタブレットを持ち歩くことが当たり前の光景となっています。アップル社が初めて「iPhone」を発売したのは2007年のこと。わずか14年間で、生活やビジネスにおいて、なくてはならないツールになりました。これから、ますますIoT、AIは高性能化し、2030年には「第4次産業革命」が起こるとも言われています。例えば、自動運転の車両などの開発が進んでおり、すでにハンドル操作をサポートする技術や、自動ブレーキシステムなどを搭載した車が走っていることはご存のとおりです。

IoTやAIが世の中をどう変える？

IoT(アイオーティー)は「Internet of Things(インターネットオブシングス)」の略で、モノのインターネットと訳されています。IT用語辞典では「IoTとは、コンピュータなどの情報・通信機器だけではなく、世の中に存在する様々な物体(モノ)に通信機能を持たせ、インターネットに接続したり、相互に通信したりすることにより、自動認識や自動制御、遠隔計測などを行うこと」となっています。つまり、いろいろなモノをインターネットにつなぐ技術のことで、このモノは物体だけではなく、自然現象や生物の行動なども含みます。モノの位置情報やモノの状態、モノの周りの環境

データを自動的に取得、蓄積できるようになります。今までは、人間がスイッチ入れ、操作をしてモノを動かしたり、情報を収集したりしていましたが、今後はIoT化によって、モノ自身が情報を収集して自動的にデータを送れるようになります。

またAI(エーアイ)とは「Artificial Intelligence(アーティフィシャル インテリジェンス)」の略で、人工知能のことです。IT用語辞典では「人間にしかできなかったような高度に知的な作業や判断をコンピュータを中心とする人工的なシステムで行えるようにするもの」となっています。ドローンやロボット掃除機、Siri(シリ/iOSで利用できる音声認識機能)などを一度は目にしたことがあるでしょう。これらはAI機能が搭載された製品です。

ITが人手不足を解消！

コロナ禍でネットショッピングや通販の利用が増え、ただでさえ不足しているドライバーの確保が大変かと思えます。しかし、AIによる自動運転技術が進めば、ドライバーがいなくても、安全に車両が走行できるようになります。さらに、ドローンによる自動配送サービスが実現すれば、そもそも車両で配送する必要もなくなります。もちろん、まだまだ完全な自動運転車はありませんし、ドローンについても長距離や重量の問題もありますが、2014年にオックスフォード大学のオズボーン准教授が発表した論文では、今後10～20年で消えそうな仕事としてドライバーが挙げら

れています。なお、この論文では約700職種について分析がなされ、私たち士業に加え、医療職種も不用になる可能性があるのです。

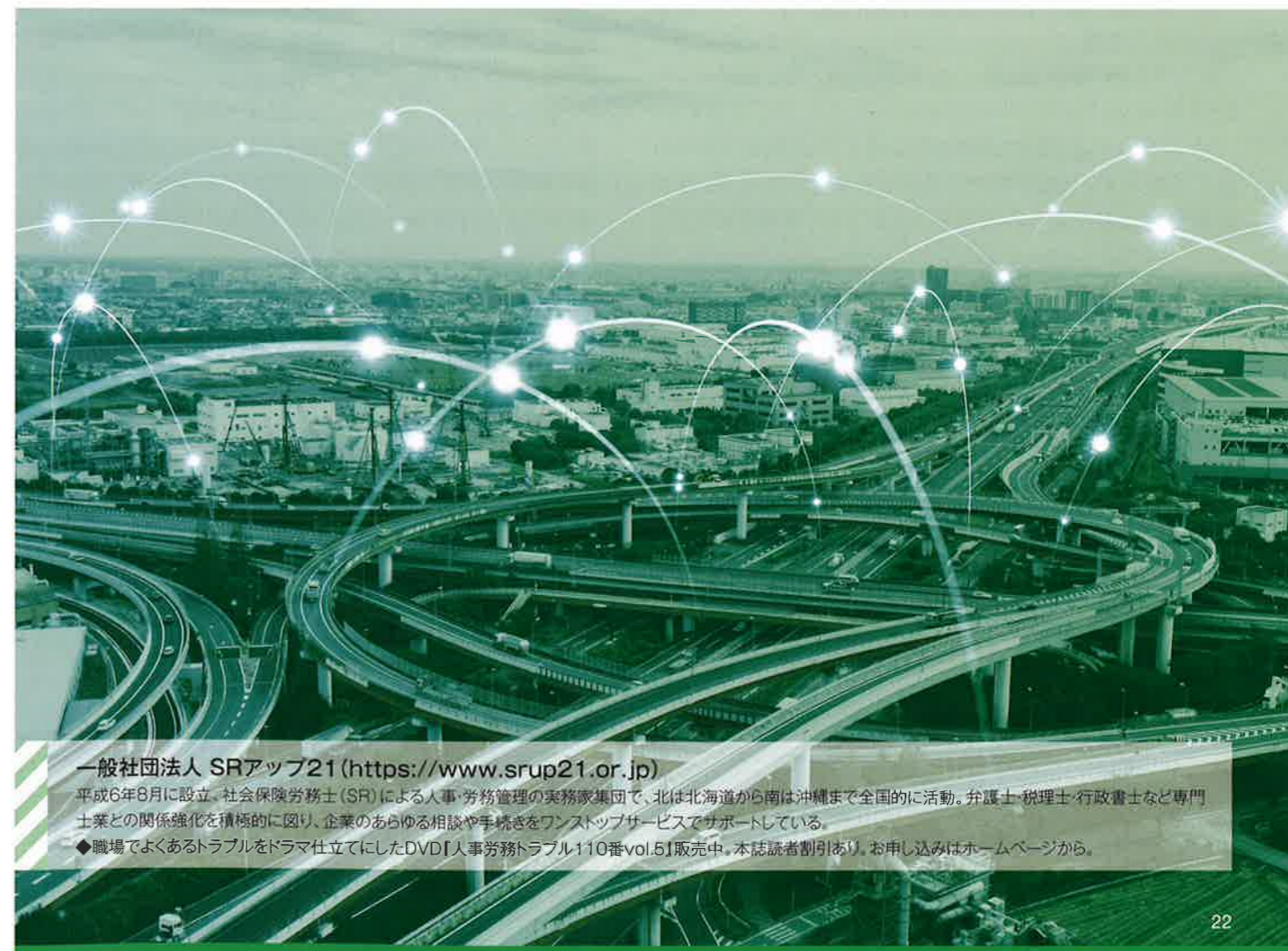
また、将来的には倉庫や配送車をIoT化することによって、在庫状況や積載情報、空車情報もリアルタイムに収集できるようになるでしょう。この情報は、どんなに人が気をつけていても起こりえる入力ミス(ケアレスミスやヒューマンエラー)がないので非常に正確です。したがって、棚卸しや在庫確認の作業時間を省いて、別の仕事に振り分けることができるようになります。すでに、商品の仕分けを自動で行うシステムを導入している企業があります。さらに、AIと連動させると、走行中の車両状況がリアルタイムで把握ができる上に、渋滞などの道路状況により、到着時刻を自動で修正する、適正な配送ルートを選択する、といったことができるようになります。つまり、新人ドライバーでも、熟練ドライバーと同様の効率的な配送が可能になるといえることです。また、効率的な配送ルートは、単に労働時間を短縮するだけでなく、CO2削減にも貢献する

でしょう。

新たに求められる人材とは

すべてがIT化、デジタル化されるわけではありませんが、これからは、新しい技術を理解し、そのシステムを使いこなせる人材が必要になります。この先、多種多様な技術が開発されていく中で、コンピュータにできること、できないことを見極め、自社のサービスにどう活かしていくか検証することで、ビジネスチャンスが広がり、雇用を守ることにもつながります。

自給自足の生活に戻らない限り、物流・運送業は必要不可欠な仕事です。また、すべての業務をAIなどに取って代わられることもないでしょう。しかし、一概にITやデジタル化は関係ない、難しいと遠ざけるのではなく、その動向を注視し、積極的に取り入れていく姿勢が大切です。第4次産業革命が起こるかもしれない2030年まであと9年、物流・運送業界においても、IoT、AIを活用できる人材確保、人材育成に取り組むことが望まれます。



一般社団法人 SRアップ21 (<https://www.srup21.or.jp>)

平成6年8月に設立。社会保険労務士(SR)による人事・労務管理の実務家集団で、北は北海道から南は沖縄まで全国的に活動。弁護士・税理士・行政書士など専門士業との関係強化を積極的に図り、企業のあらゆる相談や手続きをワンストップサービスでサポートしている。

◆職場でよくあるトラブルをドラマ仕立てにしたDVD「人事労務トラブル110番vol.5」販売中。本誌読者割引あり。お申し込みはホームページから。